

# とともに・・・

R7. 7. 15

自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子の育成

## 「きつくない？ 大丈夫？」

### ～4・5年生の宿泊体験学習～

7月10・11日（木・金）、4・5年生が1泊2日の宿泊体験学習に行きました。行き先は、豊後高田市香々地青少年の家です。4年生の子どもにとって、本校における泊を伴う学習は、初めてです。

事前に、4・5年生で、この宿泊学習におけるめあてや約束を、話し合って以下のように決めたそうです。

#### ○全体のめあて

“自分たちで考え、協力できる最高の高学年になろう”

#### ○宿泊体験学習の約束

- ①やるべきことを考えて行動する
- ②友達と協力する
- ③時間を守る

バスに乗り、11時に現地到着。すぐに、宿泊棟に自分の荷物を運び入れます。その時、丁度海から戻ってきた他校の子どもたちや先生と出会いました。戸惑いながらも自分からあいさつしようとする本校の子どもたちの姿も伺えました。

昼食後、研修室で入所式です。入所式の中で、改めて自分たちが話し合って決めためあてを、みんなで確認しました。私からは、「みんなが決めた①②の約束は、本校がめざす“学び合う子”“大切にし合う子”につながるものである」と、「③の時間を守るについても、やりたいことを我慢して次の準備をすることであり、“心をきたえ合う子”に通じる」旨を話しました。

1泊2日の生活については、4・5年縦割りで、活動班3班と、生活班4班で編成されています。

最初の活動は、「写真立て作り」です。当初、オリエンテーリングを予定していましたが、暑さの関係で活動の時間を下げてもらうことにしました。

フレームに、どんぐりやまつぼっくり等の木の実や貝殻等を貼り付け、オリジナルの写真立てを作っています。部屋の後ろに、青少年の家で採れた、たくさんの種類の材料が置かれています。子どもたちは、どれにしようか迷いながら、好みの材料を選んでいきます。そして、木の実の形や大きさ、配置を慎重に考えて、フレームに丁寧に貼り付けていきます。

個の活動のみで終わってしまわないように、作った後、グループ毎に友達の作品を鑑賞する場も設けました。「まつぼっくりと貝殻をつけてかわいい作品ができている」「いろんな材料をフレームの周り全体に貼り付けていて、華やか」等、自分の作品にはない友達の作品の“すてき”にも目を向けることができました。



16時になり、地図を見ながら、12地点に置かれている文字を探すオリエンテーリングです。3つの活動班毎に、時間差でそれぞれ出発です。私は、一つの班の後ろについていました。

林の中に入ると、それまでの暑さがうそのようです。心地よい涼しい風がそよぎます。子どもたちは元気に前へと進みます。どこに文字があるのだろう・・・と周りを見ながら探し続けています。しばらくすると、「あっ、あった！」と、樹木に貼り付けてある文字を見つけた子どもたちの弾む声が聞こえてきました。一つ見つけたら、次の文字探しにスタートです。

歩いている途中、「むかでがいた！」「カタツムリがいる！」と、生き物にも遭遇し、自然に身を置く楽しさを味わっているようです。

かなり歩き、一人の子が、グループみんなの体調が気になったのか、「きつくな？ 大丈夫？」と、声をかけています。「先生、大丈夫ですか？」と、後ろにいる私にも声をかけてくれます。ちょっとした声かけですが、とてもうれしいものです。声をかけられた子どもたちも、温かな声かけで、元気がチャージされたようです。

約1時間後、全ての子どもたちが、元気にゴールしました。縦割り班で林道を歩きながら協力して文字を探す楽しさを味わうとともに、学校とは違った心の結びつきができたようです。



実は、入所式の前に、食堂で昼食がありました。配膳の準備は、自分たちでしなければなりません。子ども自らが、状況を見ながらすべきことを考え、動いていくようにと、「ご飯をよそう係」「箸を並べる係」等の係は、あえて決めていませんでした。

今回の宿泊学習にあたり、我々教職員は、「子どもたちが自ら考え、進んで行動できるよう、教職員の指示は、必要最小限に控え、子どもたちに考えさせ、任せる姿勢でいる」ことを確認し、臨みました。

第1回目の食事である昼食。食堂に行った子どもたちは、自分が何をすればよいのかわからず、戸惑う姿が見られます。準備にも時間がかかってしまいました。子どもが戸惑っている姿を見かけると、我々はすぐに、「こうしたらいいんじゃないかな」と、アドバイスをしてしまいかちになります。しかし、子ども自身が考えて行動する場を大事にしようと、見守り、時間はかかりましたが最後まで任せました。

さて、2回目の食事となる夕食。昼食時の様子とは全く異なっています。ご飯をよそう子、お汁をつぐ子、お茶をコップにつぐ子、注がれたお椀やコップを運ぶ子、箸を並べる子と、自分で役割を見つけ、どんどん動いています。全ての準備が終わるまで、誰一人座る子もいません。そうして、あつという間に食事の準備が終わったのです。

昼食準備の経験から得た学びを、夕食時にしっかり活かせたようで、大変すばらしい姿です。<次号に続く>

